

## OPM 音色定義書式

音色の編集には「OPM 音色レジスタ編集ツール」を使用すると便利です。

標準設定の場合（#VOICE\_MODE 未使用、または #VOICE\_MODE=0）

[ 書式 ]

```
@<inst> {
PAN,ALG, FB, OP
AR, DR, SR, RR, SL, TL, KS,MUL,DT1,DT2,AME ;OP1
AR, DR, SR, RR, SL, TL, KS,MUL,DT1,DT2,AME ;OP2
AR, DR, SR, RR, SL, TL, KS,MUL,DT1,DT2,AME ;OP3
AR, DR, SR, RR, SL, TL, KS,MUL,DT1,DT2,AME ;OP4
}
```

上記のような書式で定義します。定義位置は任意ですが、曲全体でその音色が有効となります。

<inst> には音色番号、もしくは音色名のいずれかが入ります。音色名を使う場合はダブルクォーテーションで括ってください。音色名には大文字と小文字の区別はありません。

音色番号、音色名の後には改行が必須です。音色番号、音色名と1個目のパラメータを1行で書くことはできません。2個目のパラメータからはすべて1行で記述してもかまいません。

各パラメータの区切りは、「,」（カンマ）以外にも半角空白とタブが使えます。

もちろん、「;」（セミコロン）や「/\* ~ \*/」を使ってコメントを入れることもできます。

PANのパラメータを0にすると、それまでのパンポット設定を継続します。強制的に特定の値で決め打ちしたい場合のみ、1以上を指定してください（ドラムパートで楽器ごとの定位を固定したいときなどに有用です）。

### 記述例

```
@"SYNTH" { ;synth lead
;PAN AL FB OP
0, 4, 3, 15
; AR DR SR RR SL TL KS MUL DT1 DT2 AME
31, 0, 2, 0, 0, 20, 0, 2, 3, 0, 0
24, 14, 6, 6, 1, 0, 0, 5, 3, 0, 0
31, 0, 2, 0, 0, 16, 0, 1, 7, 0, 0
24, 18, 9, 6, 2, 0, 0, 3, 7, 0, 0
}
```

### #VOICE\_MODE を使用する場合

#VOICE\_MODE ヘッダを使用することで、音色定義書式を変更することができます。

### #VOICE\_MODE=1 の場合

標準設定との違いは、PAN ~ OP が下段に位置する点です。

```
@<inst> {
AR, DR, SR, RR, SL, TL, KS,MUL,DT1,DT2,AME ;OP1
AR, DR, SR, RR, SL, TL, KS,MUL,DT1,DT2,AME ;OP2
```

```

AR, DR, SR, RR, SL, TL, KS, MUL, DT1, DT2, AME ;OP3
AR, DR, SR, RR, SL, TL, KS, MUL, DT1, DT2, AME ;OP4
PAN, ALG, FB, OP
}

```

#### #VOICE\_MODE=2 の場合

標準設定とほぼ同じですが、PAN を省略して記述します。この際、PAN は 0 として扱います。

```

@<inst> {
ALG, FB, OP
AR, DR, SR, RR, SL, TL, KS, MUL, DT1, DT2, AME ;OP1
AR, DR, SR, RR, SL, TL, KS, MUL, DT1, DT2, AME ;OP2
AR, DR, SR, RR, SL, TL, KS, MUL, DT1, DT2, AME ;OP3
AR, DR, SR, RR, SL, TL, KS, MUL, DT1, DT2, AME ;OP4
}

```

#### #VOICE\_MODE=3 の場合

#VOICE\_MODE=1 の PAN 省略形です。MXDRV 互換書式でもあります。

```

@<inst> {
AR, DR, SR, RR, SL, TL, KS, MUL, DT1, DT2, AME ;OP1
AR, DR, SR, RR, SL, TL, KS, MUL, DT1, DT2, AME ;OP2
AR, DR, SR, RR, SL, TL, KS, MUL, DT1, DT2, AME ;OP3
AR, DR, SR, RR, SL, TL, KS, MUL, DT1, DT2, AME ;OP4
ALG, FB, OP
}

```

#### #VOICE\_MODE=4 の場合

アルゴリズムとフィードバックをまとめて設定します (AF)。

```

@<inst> {
AF, OP, PAN
AR, DR, SR, RR, SL, TL, KS, MUL, DT1, DT2, AME ;OP1
AR, DR, SR, RR, SL, TL, KS, MUL, DT1, DT2, AME ;OP2
AR, DR, SR, RR, SL, TL, KS, MUL, DT1, DT2, AME ;OP3
AR, DR, SR, RR, SL, TL, KS, MUL, DT1, DT2, AME ;OP4
}

```

#### #VOICE\_MODE=5 の場合

NEW FM 音源ドライバー /GMR-X1/OPMDRV 互換書式です。各種エフェクトを同時に設定できます。この書式では SY のビット 1 がノイズスイッチを兼ねており、ビット 1 を立てる (SY の値を 2 ~ 3 にする) と、Ch.8/OP4 でノイズが有効になります。

```

@<inst> {
AF, OP, WF, SY, SP, PMD, AMD, PMS, AMS, PAN, NOI
AR, DR, SR, RR, SL, TL, KS, MUL, DT1, DT2, AME ;OP1
AR, DR, SR, RR, SL, TL, KS, MUL, DT1, DT2, AME ;OP2
AR, DR, SR, RR, SL, TL, KS, MUL, DT1, DT2, AME ;OP3
AR, DR, SR, RR, SL, TL, KS, MUL, DT1, DT2, AME ;OP4
}

```

#### 関連

#VOICE MODE ヘッダ, PSG 音色定義書式, @ コマンド